

8 月下旬における水稻の病害虫（いもち病，斑点米カメムシ類を除く。）の発生状況は以下のとおりです。

巡回調査（69 地点）は 8 月 17～23 日に実施

○ 紋枯病

・今回の調査では，発生地点率は 84.1%で平年(58.3%)より高く，発病株率は 19.5%で平年(10.8%)より高く，ともに過去 10 か年で最も高い状況でした(図1)。

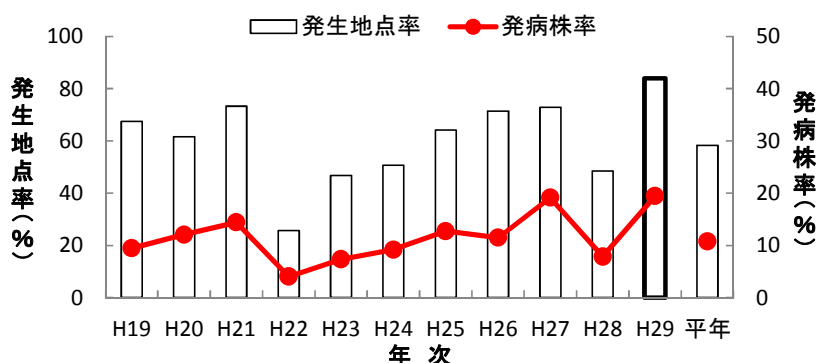


図1 8月下旬における紋枯病の発生状況

調査株数:25 株 平年:過去 10 か年平均

・発生地点率，発病株率ともに，平年を上回って増加していますが，病斑の上位進展は緩慢で，発病度は平年並に推移しています(図2～4)。

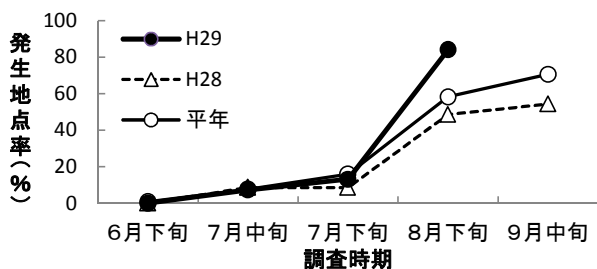


図2 紋枯病の発生地点率の推移

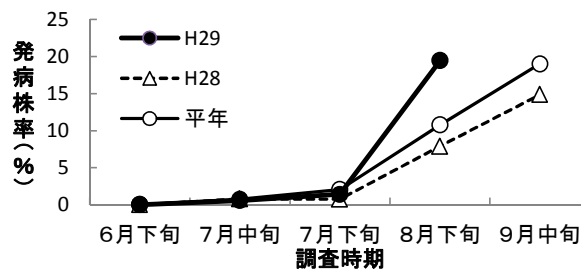


図3 紋枯病の発病株率の推移

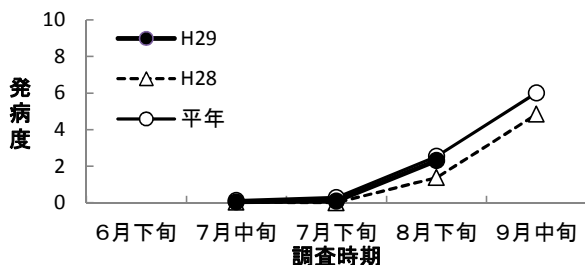


図4 紋枯病の発病度の推移

・収穫直前における発病株率が 40%を越える場合は、高い確率で翌年の発病株率が当年を上回ります。今回の調査で既に、発病株率 40%を超えている地点が 11.6%ありました。紋枯病の発生がみられたほ場では、収穫直前の発病株率を調査し、翌年の育苗箱施用剤等による予防防除を検討してください。(普及に写す技術第 90 号 普及技術 <http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/300675.pdf>)

○ 稲こうじ病

・今回の調査では、発生地点率は 11.6%で平年(11.8%)並、発病株率は 1.3%で平年(1.8%)並の状況でした。

○ 白葉枯病, ごま葉枯病

・今回の調査では、発生は確認されませんでした。

○ ツマグロヨコバイ

・今回の調査では、すくいとり虫数(成虫と幼虫の合計)は 46.6 頭で平年(33.9 頭)よりやや多く、発生地点率は 35.5%で平年(18.7%)より高い状況でした。一部地域で発生が多くみられました。

○ ヒメトビウンカ

・今回の調査では、すくいとり虫数(成虫と幼虫の合計)は 37.3 頭で平年(67.2 頭)よりやや少なく、発生地点率は 91.9%で平年(94.1%)並でした。

○ フタオビコヤガ (イネアオムシ)

・今回の調査では、すくいとり虫数(幼虫)は 0.2 頭で平年(1.3 頭)よりやや少なく、発生地点率は 3.2%で平年(20.8%)より低い状況でした。

○ コバネイナゴ

・今回の調査では、すくいとり虫数(成虫と幼虫の合計)は 12.0 頭で平年(2.0 頭)より多く、発生地点率は 91.9%で平年(49.5%)より高く、過去 10 か年で最も多い状況でした(図5)。

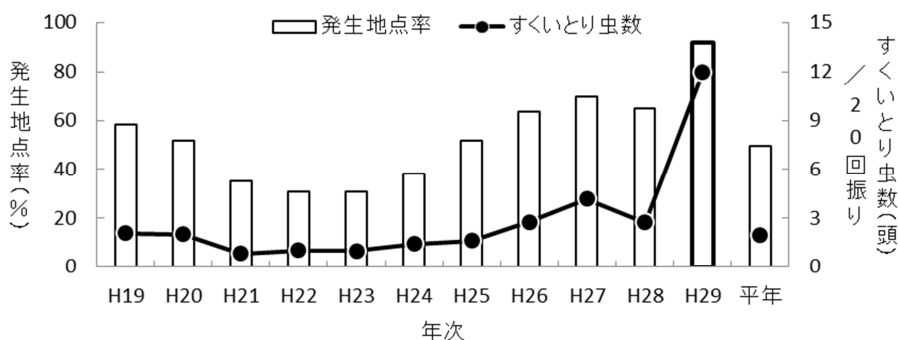


図5 コバネイナゴの発生地点率とすくいとり虫数の年次推移(8月下旬)

20回すくいとり調査。平年値：過去10か年平均値。虫数：成虫+幼虫。

○ ササキリ類

・今回の調査では、すくいとり虫数(成虫と幼虫の合計)は 2.1 頭で平年(0.6 頭)より多く、発生地点率は 66.1%で平年(32.2%)より高く、過去 10 か年で最も多い状況でした。

○ イネカラバエ

・今回の調査では、発生地点率は 1.4%で平年(0.7%)よりやや高く、被害株率は 0.1%で平年(0.1%)並でした。

○ イネツトムシ

・今回の調査では、発生は確認されませんでした。

○ コブノメイガ

・今回の調査では、発生は確認されませんでした。